



2025年3月28日

各 位

会 社 名 株式会社 ナカノフドー建設  
代 表 者 名 取締役社長 飯塚 隆  
(コード番号 1827 東証スタンダード)  
問 合 せ 先 経営企画部長 黒田 英一  
TEL 03-3265-4666

### 中期経営計画「中計 86」の策定について

当社は、この度、2026年3月期(第84期)から2028年3月期(第86期)の3ヶ年を計画期間とする、中期経営計画「中計 86」を策定しましたので、お知らせいたします。

当社グループは、2022年3月から約10年間の長期ビジョンを策定して、人財の育成と技術力の向上を軸に成長を目指して、経営基盤の改革に取り組んでまいりました。

前中期経営計画期間中は、新型コロナウイルスの感染拡大、物価高騰、人手不足の問題が顕在化し、中期経営計画の進捗に影響を及ぼしました。

新中期経営計画では、成長に向けた育成期と捉え、『国内建設事業のさらなる収益性改善と海外建設事業の拡大』の基本方針のもと、再度、経営基盤の改革に取り組んでまいります。

以上

# 中期経営計画「中計86」 2025-2028

株式会社ナカノフドー建設



思いに出逢い カタチを造る

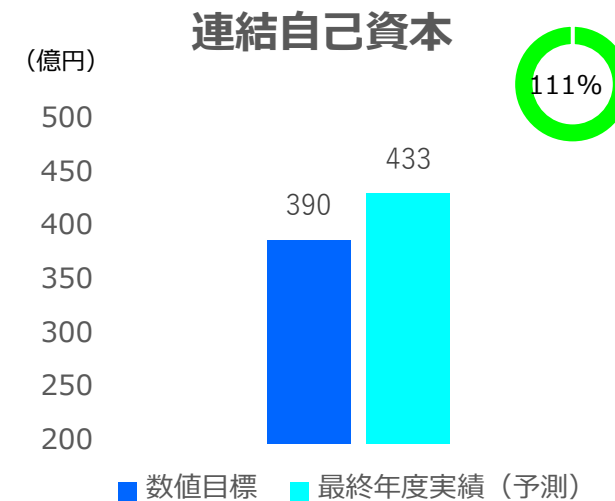
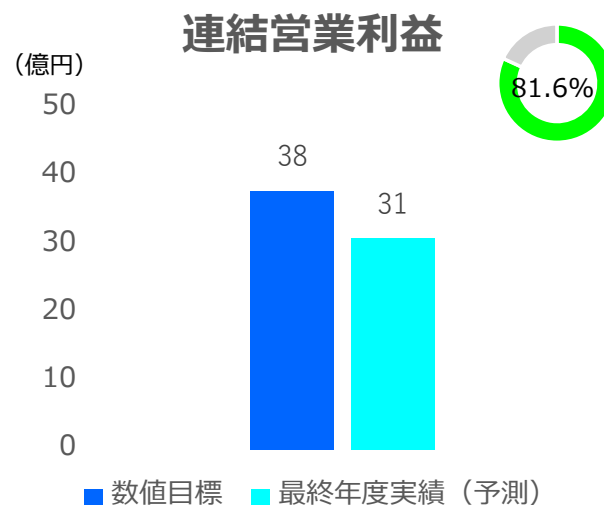
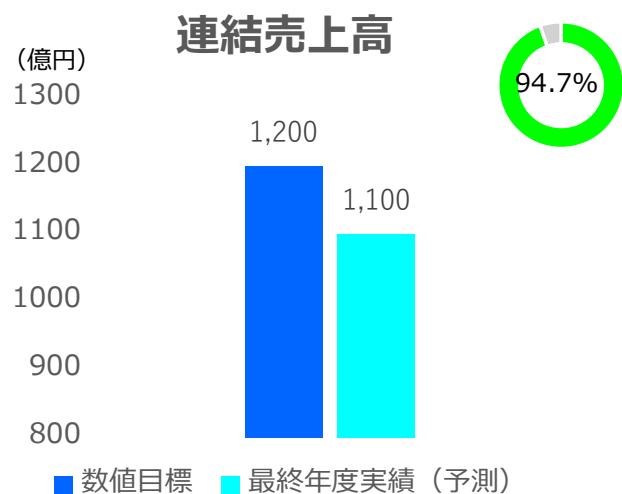
# 目次

1. 前中期経営計画の振り返り
2. 前中計の課題と外部環境
3. 長期ビジョン
4. 中計86基本方針
5. 全社基本方針
6. 経営指標
7. 事業別基本方針・施策
  - ①国内建設事業
  - ②海外建設事業
  - ③不動産その他事業
- 8.SDGs～脱炭素化への取り組み～
- 9.株主還元方針
- 10.投資計画

# 1.前中期経営計画の振り返り

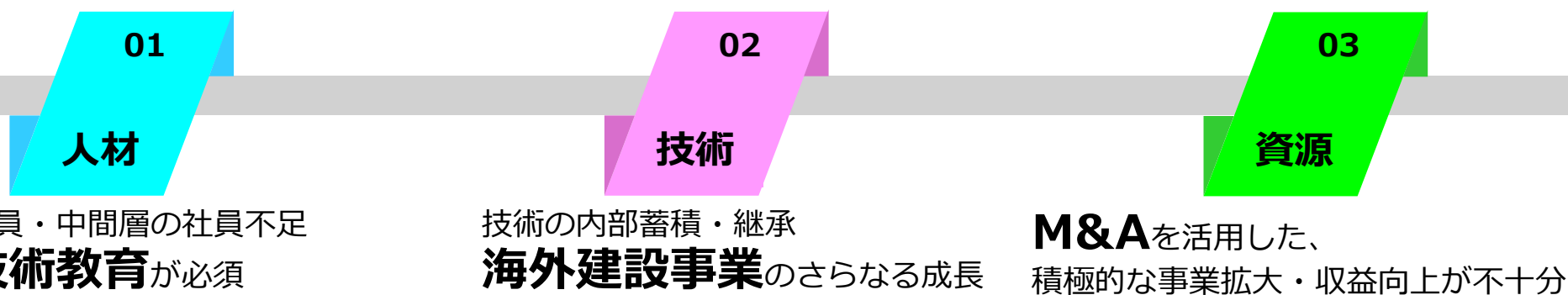
## ■ 前中計の目標と実績

	数値目標	最終年度実績（予測）	達成率
連結売上高	1,200億円	1,100億円	94.7%
連結営業利益	38億円	31億円	81.6%
連結自己資本	390億円	433億円	111%
株主配当	14円以上	16円	114.3%



## 2.前中計の課題と外部環境

### ■ 前中期経営計画振り返りによる課題



### ■ 外部環境

- ① 少子高齢化、人手不足、残業規制による生産性の低下
- ② 資材価格の高止まり、労働者不足による収益性の低下
- ③ インフラ維持工事、災害対策工事、インバウンド需要拡大等により建設市場は維持
- ④ 海外建設市場は今後も成長

国内外の建設市場環境で**今後成長**していくためには、**生産力・生産性の向上**、**収益確保のための差別化**、**海外建設事業の成長**が必要。

### 3.長期ビジョン

～顧客の満足と信頼を世界規模で創造し続ける企業～

中計83期間において、  
新型コロナウイルス、  
人手不足、物価上昇等の  
外部要因が計画の進捗に影響

➡ 中計86も育成期を継続

経営基盤の改革

事業領域の拡大

収益構造の確立

海外事業比率  
50%を目指す

企業価値  
向上

育成期

加速期

発展期

2022-2024

2025-2027

2028-2030

2031-2033

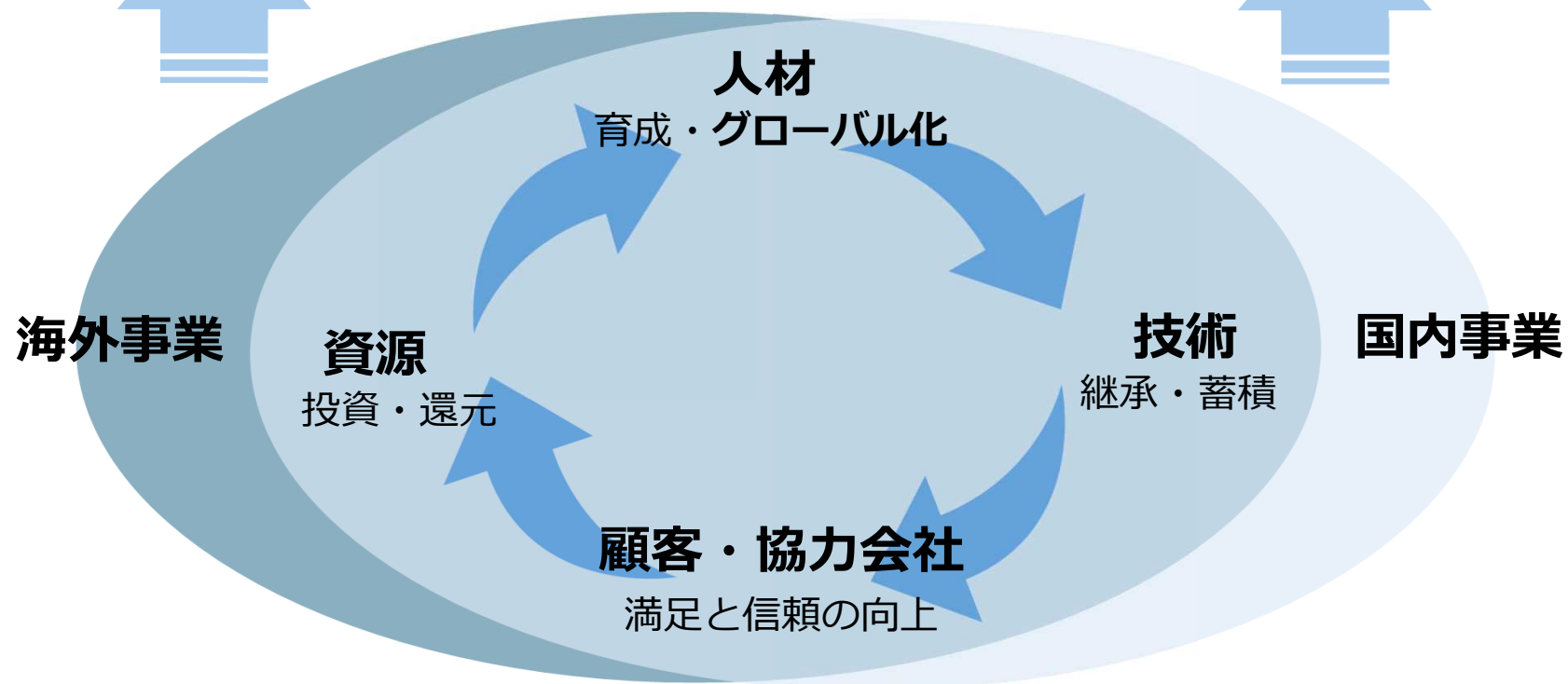
## 4.中計86基本方針

「国内建設事業のさらなる収益性改善と海外建設事業の拡大」

### ナカノフドー建設の持続的な成長

【海外への成長投資により事業拡大】

【国内の経営資源の充実化】



## 5. 全社基本方針

# 国内建設事業のさらなる収益性改善と 海外建設事業の拡大

- 国内建設事業：人材育成と社内外連携により、差別化を図り利益をあげる
- 海外建設事業：M&Aや営業の強化により、事業を拡大し利益を確保する



## 6. 経営指標

連結売上高

**1,270**億円

連結営業利益

**33**億円

連結純利益

**25**億円

海外事業比率\*

**35%**

投資総額

**50**億円

\*国内建設事業との売上高比率

## 7. 事業別基本方針・施策

### ① 国内建設事業

#### ■ 基本方針 収益性のさらなる改善

#### ■ 数値目標

完工高	完工利益
<b>810</b> 億円	<b>81</b> 億円

#### ■ 重要施策

- 1 顧客対応の**迅速化**  
業務内製化・部署間の連携強化
- 2 **人材力充実**  
経験重視の人材育成・次期リーダー育成
- 3 **収益力向上**  
リノベーション事業強化・協力会社と連携強化
- 4 **土木事業拡大**  
人材獲得・M&Aによる事業拡大の検討



アトラスタワー小山城山町



ヒルトン・ガーデン・イン・京都四条烏丸



ピアッツァタワー上本町EAST

## ②海外建設事業

■ 基本方針

### 海外建設事業の拡大

■ 数値目標

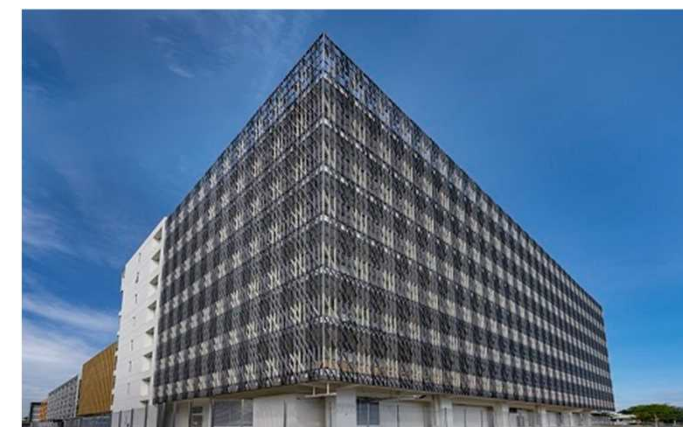
完工高	売上総利益
<b>450</b> 億円	<b>24</b> 億円

■ 重要施策

- ① **建設事業拡大**  
営業情報の拡大・事業エリア拡大
- ② **拠点体制拡充**  
人材の確保と育成・拠点間の連携強化
- ③ **収益力向上**  
現場対応力・原価管理力強化
- ④ **収益基盤強化**  
M&A・非建設事業参入への検討



soraコンドミニアム



NTTデータセンターCBJ5

## ③不動産その他事業

### ■ 基本方針 **安定したキャッシュフローの維持**

### ■ 数値目標

売上高

**15**億円

営業利益

**7**億円

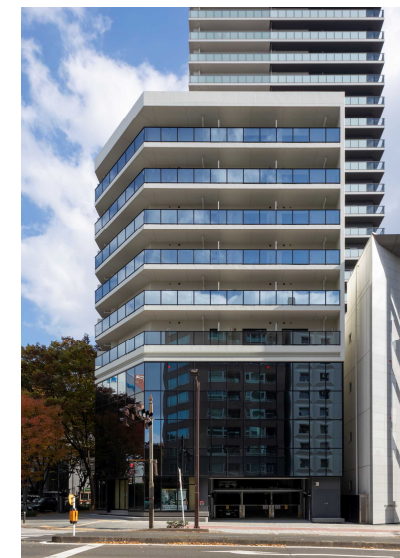
### ■ 基本施策

#### ① 収益力強化

保有物件のニーズに合ったリニューアル  
資金有効活用のため建替、売却検討

#### ② 収益拡大の検討

中型風力発電事業などの、  
再生可能エネルギー事業の検討



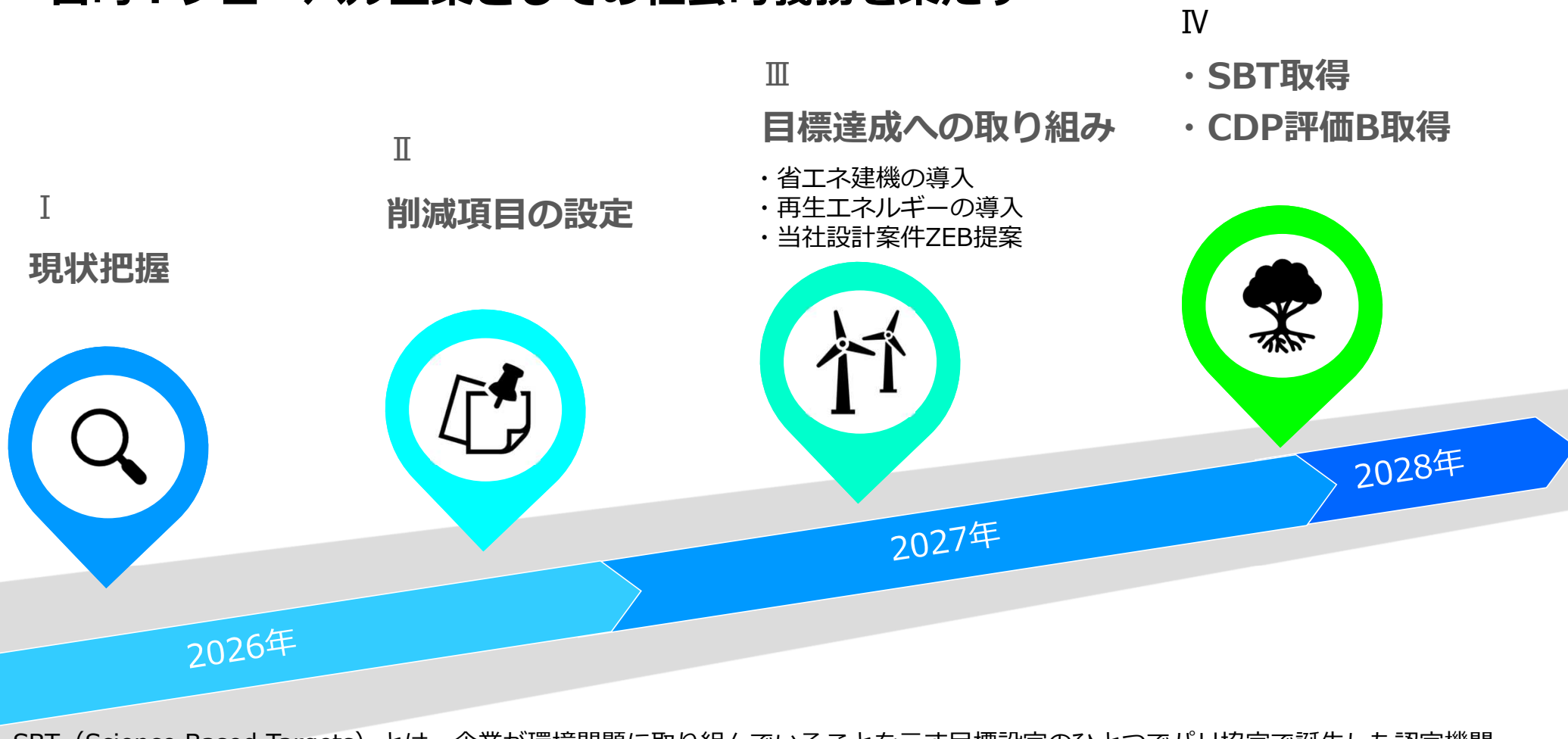
NF青葉



北海道苫前町

## 8.SDGs ～脱炭素化への取り組み～

目的：グローバル企業としての社会的義務を果たす



- ・ SBT (Science Based Targets) とは、企業が環境問題に取り組んでいることを示す目標設定のひとつでパリ協定で誕生した認定機関
- ・ CDP (Carbon Disclosure Project) とは、情報開示の視点で、気候変動リスクについて分析・評価しスコアリングする機関

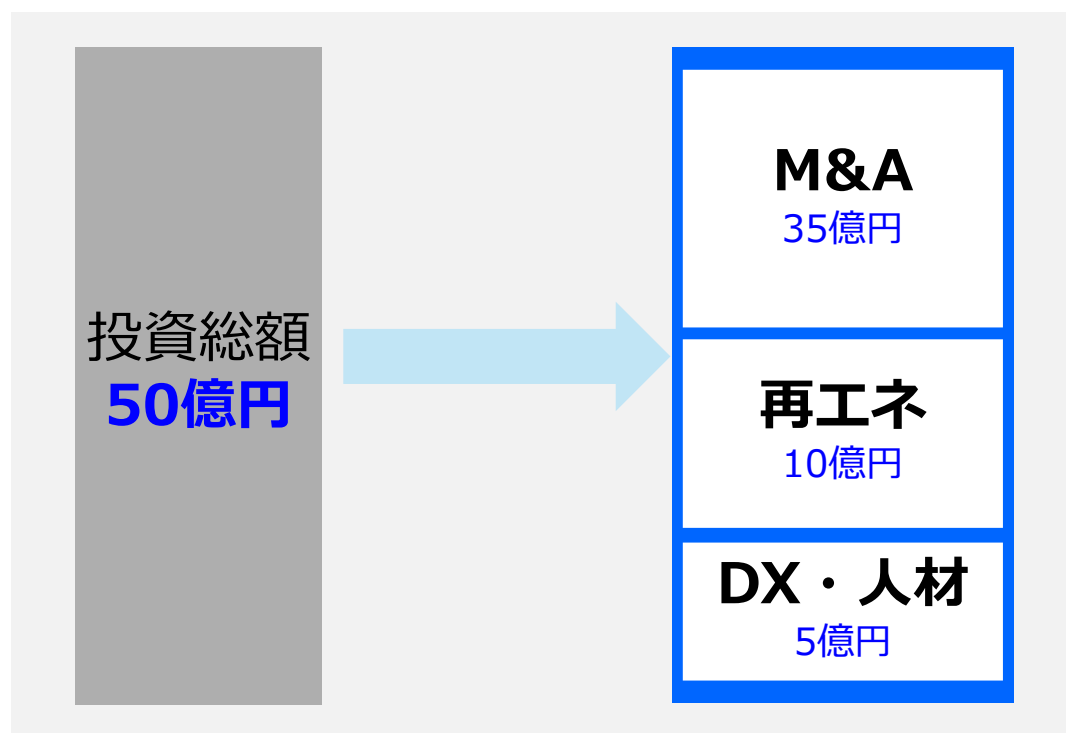
## 9.株主還元方針

- 現中期経営計画期間における株主還元方針として、  
**DOE 1.5%**を下限値とし、**配当性向 30%**を目安に  
**財務健全性の維持向上と成長に向けた投資**の両面から考慮して、  
株主還元を実施していきます。

当社では、成長と収益力向上に向けた投資計画の資金留保と事業継続性の維持に必要な資金留保の両面から考慮して、配当目安として設定しております。

## 10.投資計画

- **事業活動から生み出される利益**を、事業成長と収益力向上のために投資していきます。



- 1 M&A⇒**35億円**
  - ・海外でのM&A
  - ・土木事業拡大
  - ・設備、設計分野の強化
  - ・工事の内製化
- 2 再生可能エネルギー事業⇒**10億円**
  - ・中型風力発電事業
- 3 DX・人材⇒**5億円**
  - ・業務効率化、対応の迅速化サポート
  - ・人材育成、待遇・環境の維持、改善